



昭和大学歯学部
昭和大学歯科病院

創立30周年

発行責任者 病院長 川和忠治
編集責任者 広報副委員長 山本松男
本号編集担当 宮崎芳和

〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1 TEL 03-3787-1151
ホームページ: <http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/>

退職にあたっての思い出

昭和大学歯学部小児成育歯科学教室 佐々龍二

本学は歯学部設立が昭和52年4月、それから約3か月後の同年6月29日に歯科病院が開院しました。私は52年に赴任し、本年3月末をもって退職、28年間の長きにわたり小児の歯科診療に携わり多くの経験をさせていただきました。28年間と言えば、当時の3歳児は今31歳になっているはずで、光陰矢のごとし、月日が経つのも早いものです。

当時は臨床系教授5名、教員が30名足らず、しかし歯科医不足のせいにか多くの患者さんが来院し、特に、小児歯科は治療中泣き叫ぶ子が多いせいか、近医からの依頼が多く、担当医が決まるまでに数ヶ月待機してもらったこともあり、今思うと懐かしい思い出です。

私の手元に昭和52年6月30日第一回病院運営委員会の報告資料がありますが、これからの病院運営を如何にスムーズに行うために、救急患者の対応、中材や薬局、X線撮影のことなどが検討されていました。

小児歯科の外来は今とまったく同じ場所、プレイルームの設置を考えたり、角が鋭角な小児歯科の筆記用台は危険なので角を円形にしたり、また、歯科衛生士を集めてこれからの小児歯科診療のあり方を教授したり結構多忙であったと思います。当時の病院長のご配慮から小児歯科には10名の歯科衛生士が配属されていましたが、小児の口腔疾患の予防業務を遂行するには歯科衛生士の協力が不可欠です。

その後、小児歯科の医局員も徐々に増え、それに加えて小児歯科の中での新しい診療部門として、障害をもったお子さんを専門に治療する特診外来、口唇口蓋裂児の歯科治療を行う SCPT 外来や歯科衛生士がう蝕予防を行うブラッシングコーナーを設置しました。

小児患者にとって明るく楽しい雰囲気の中で治療を行う診療室作りを行ってきた結果、現在でも1日平均60数名の患者さんが来院してくれています。

少子高齢化社会の現代、子どもの数は少なくなっていますが、これは逆にこれからの社会を背負う子どもたちが大切になってくるのではないかと考えております。

最後に私を支えてくれた歴代の歯科病院長はじめ関連各位に厚く御礼申し上げます。



佐々教授 最終講義

診療科紹介(矯正科)

矯正歯科 横 宏太郎

矯正歯科のご紹介



矯正歯科では、でこぼこ、出っ歯、受け口などの歯並びや噛み合わせの治療をおこなっています。

- ・顎の骨の成長発育を管理し、より良い噛み合わせに誘導します。
- ・成人の不正な噛み合わせを治療します。
- ・顎の骨の変形や口蓋裂などの外科矯正治療もおこなっています。

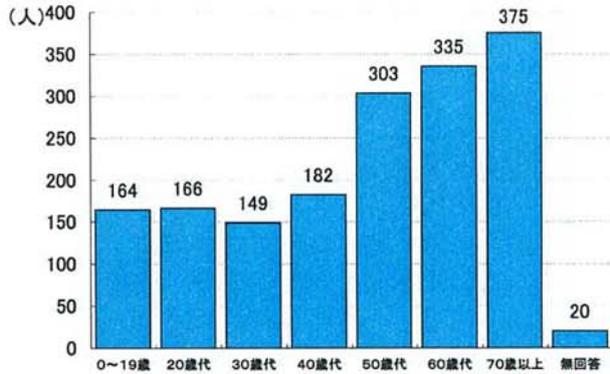
先進性に裏付けされた医療の質の向上を目指し、日本ではじめて、

- ・コーンビームCTを利用した3次元的診断
- ・見えない矯正装置Invisalign® (写真左)などを導入した治療をおこなっています。

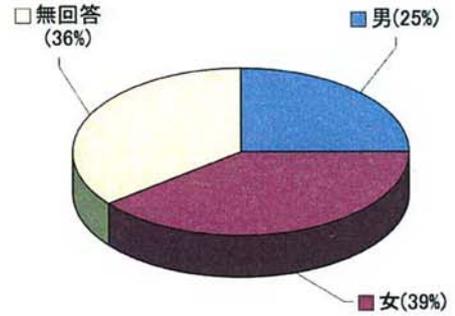
昭和大学歯科病院 患者様アンケート集計結果

実施日：平成17年10月24日（月）～26日（水）回収枚数：1,694枚（2,015枚配布・回収率85%）

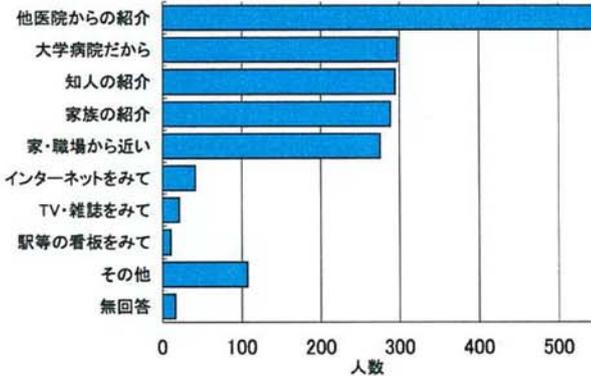
1. 年齢・性別



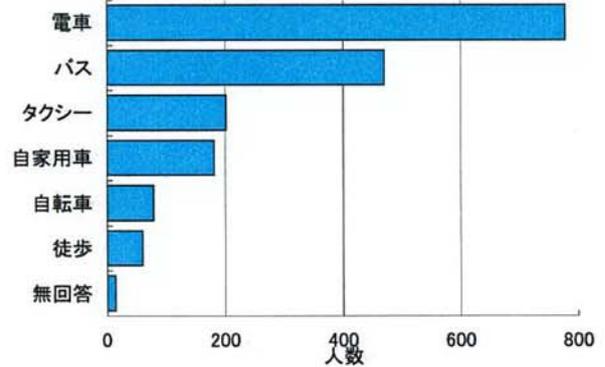
2. 性別



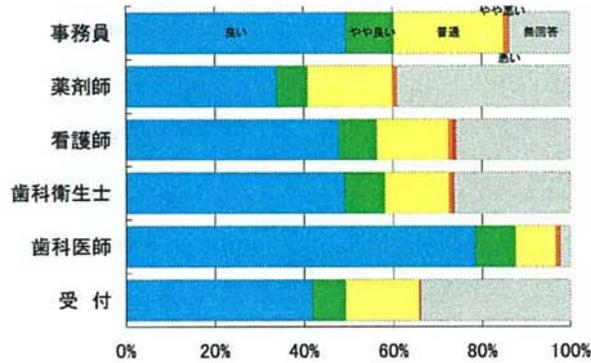
3. 当院を選んだ理由



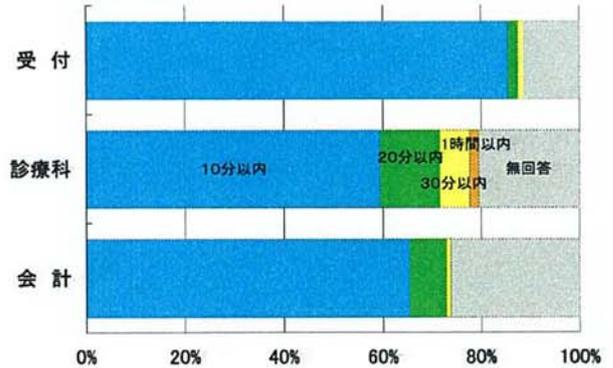
4. 通院手段



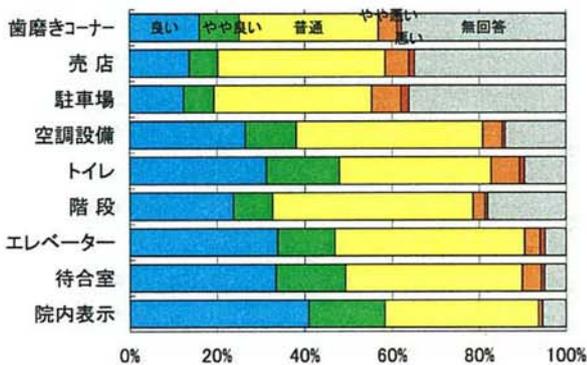
5. 職員の対応



6. 待ち時間



7. 環境整備



その他、患者様から様々なご意見をいただきました。当院といたしましては、ご指摘いただいた事項について改善を図ってまいります。